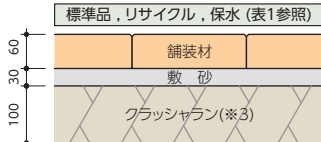


舗装構造図

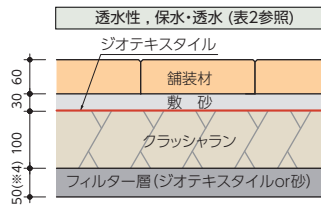
この舗装構造図は(社)インターロッキングブロック舗装技術協会発行の「インターロッキングブロック舗装設計施工要領」(平成29年3月)に基づいていますが、別途検討が必要な現場の舗装構造については、この舗装構造を参考として、設計者の指示に従ってください。

■歩行者系道路(※1)の舗装構造例

(※1)歩行者系道路:歩行者専用道路、自転車専用道路、自転車歩行者専用道路、公園内道路、広場等



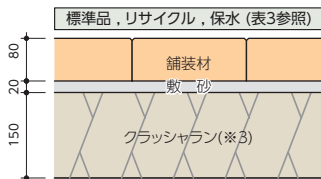
(※3)路盤材としてクラッシュラン(C-40)や再生クラッシュラン(RC-40)を使用する場合には、敷砂の路盤への流出を防止するために路盤上にジオテキスタイルを使用することを標準とする。



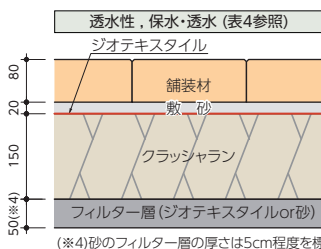
(※4)砂のフィルタ層の厚さは5cm程度を標準とする。

■乗用車乗入れ部(※2)の舗装構造例

(※2)乗用車乗入れ部:駐車場・歩道などの乗用車乗入れ部、最大積載量6.5トン未満の管理車両が走行する道路

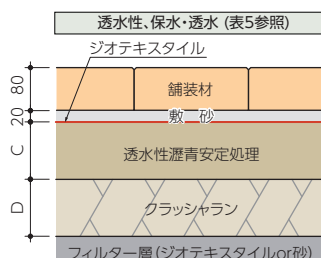
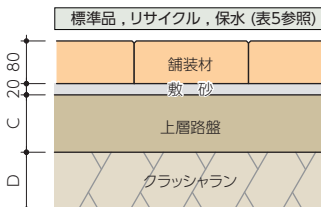


(※3)路盤材としてクラッシュラン(C-40)や再生クラッシュラン(RC-40)を使用する場合には、敷砂の路盤への流出を防止するために路盤上にジオテキスタイルを使用することを標準とする。



(※4)砂のフィルタ層の厚さは5cm程度を標準とする。

■歩行者系道路の車両乗入れ部の舗装構造例



(※4)砂のフィルタ層の厚さは5cm程度を標準とする。

■セグメンタルタイプ

車両が通行する箇所に用いられ、荷重伝達率0.3以上が確保されている式(1),(2)で定義されるインターロッキングブロック。

$$\frac{\text{ブロックの長辺}}{\text{ブロックの厚さ}} \leq 4.0 \cdots (1) \quad \frac{\text{ブロックの側面積の和}}{\text{ブロックの上面積}} \geq 1.0 \cdots (2)$$

ただし、短辺 $\geq 50\text{mm}$ 、厚さ $\leq 120\text{mm}$

■当社舗装材で該当する形状

レンガブロック小(100×100×60・80)
レンガブロック中(200×100×60・80)
サーブロックS(112.5×112.5×60・80)
サーブロックR(225×112.5×60・80)
平板小(150×150×60)
平板中(300×150×60)
平板大(300×300×80)

■フラッグタイプ

歩行者系道路に用いられ、荷重伝達率0.1以上が確保されている式(3)で定義されるインターロッキングブロック。

$$1.0 > \frac{\text{ブロックの側面積の和}}{\text{ブロックの上面積}} \geq 0.65 \cdots (3)$$

ただし、短辺 $\geq 50\text{mm}$ 、厚さ $\leq 80\text{mm}$

■当社舗装材で該当する形状

平板大(300×300×60)

■表 1:歩行者系道路の舗装構造例 【標準品, リサイクル, 保水】

単位:cm

インターロッキングブロックのタイプ	インターロッキングブロック層		路盤	合計厚さ
	インターロッキングブロック	敷砂	クラッシュランまたは再生クラッシュラン(※3)	
セグメンタルまたはフラッグ(曲げ強度3.0N/mm ² 以上)	6	3	10	19

(※3)路盤材としてクラッシュラン(C-40)や再生クラッシュラン(RC-40)を使用する場合には、敷砂の路盤への流出を防止するために路盤上にジオテキスタイルを使用することを標準とする。

■表 2:歩行者系道路の舗装構造例 【透水性, 保水・保水】

単位:cm

インターロッキングブロックのタイプ	インターロッキングブロック層			路盤	フィルタ層	合計厚さ
	インターロッキングブロック	敷砂	ジオテキスタイル	クラッシュランまたは再生クラッシュラン	ジオテキスタイルまたは砂(※4)	
セグメンタルまたはフラッグ(曲げ強度3.0N/mm ² 以上)	6	3	ジオテキスタイル	10	ジオテキスタイル	19

(※4)砂のフィルタ層の厚さは5cm程度を標準とする。

■表 3:乗用車乗入れ部の舗装構造例 【標準品, リサイクル, 保水】

単位:cm

インターロッキングブロックのタイプ	インターロッキングブロック層		路盤	合計厚さ
	インターロッキングブロック	敷砂	クラッシュランまたは再生クラッシュラン(※3)	
セグメンタル(曲げ強度3.0N/mm ² 以上)	8	2	15	25

(※3)路盤材としてクラッシュラン(C-40)や再生クラッシュラン(RC-40)を使用する場合には、敷砂の路盤への流出を防止するために路盤上にジオテキスタイルを使用することを標準とする。

■表 4:乗用車乗入れ部の舗装構造例 【透水性, 保水・保水】

単位:cm

インターロッキングブロックのタイプ	インターロッキングブロック層			路盤	フィルタ層	合計厚さ
	インターロッキングブロック	敷砂	ジオテキスタイル	クラッシュランまたは再生クラッシュラン	ジオテキスタイルまたは砂(※4)	
セグメンタル(曲げ強度3.0N/mm ² 以上)	8	2	ジオテキスタイル	15	ジオテキスタイル	25

(※4)砂のフィルタ層の厚さは5cm程度を標準とする。

■表 5:歩行者系道路の車両乗入れ部の舗装構造例

単位:cm

標準品、リサイクル、保水										透水、保水・透水							必要 T _A
乗入れする車種	交通量 (N)	交通量 区分	ブロック層		上層路盤		下層路盤	ブロック層		路床条件 A,B (注1)	上層路盤 C	下層路盤 D	割増厚	フィルター層 (注4)			
			ブロック	敷砂	C ₁ 透水性 安定処理	C ₂ 粒度調整 砕石		D ₁ クラッシュ ジャン	ブロック						敷砂		
大型 車両	N < 15	N ₁	8	2	—	7	7	8	2	ジオテキ スタイル	A	5(注3)	7	0	ジオテキ スタイル または砂	9	
	15 ≤ N < 40	N ₂	8	2	—	7	7	8	2		B	5(注3)	7	16			
	40 ≤ N < 100	N ₃	8	2	5	—	12	8	2		B	5(注3)	7	0		12	
											B	5(注3)	7	16			
	100 ≤ N < 250	N ₄	8	2	8	—	19	8	2		A	5(注2)	12	0		15	
											A	5(注2)	12	18			
250 ≤ N < 1,000	N ₅	8	2	10	15	19	8	2	A	8(注2)	19	0	19				
									B	8(注2)	19	22					
乗用車、 小型貨物 自動車	N < 300	S ₁	8	2	—	7	7	8	2	ジオテキ スタイル	A	5(注3)	7	0	ジオテキ スタイル または砂	12	
	300 ≤ N < 650	S ₂	8	2	—	8	10	8	2		B	5(注3)	7	16			
	650 ≤ N < 3,000	S ₃	8	2	5	—	12	8	2		A	5(注3)	10	0		13	
											B	5(注3)	10	17			
	N ≥ 3,000	S ₄	8	2	5	—	12	8	2		A	5(注2)	15	0		15	
											B	5(注2)	15	19			
										A	8(注2)	19	0	19			
										B	8(注2)	19	22				

注1: Aは、砂質系で路床下へ浸透させる場合、あるいは集水管・放流孔で排水する場合を指し、Bは粘性系で集水管・放流孔を設置せず、路床下への浸透で対応する場合を指す。

注2: 大型車交通量が比較的多いため、安定度3.43kN以上、等値換算係数で0.80の混合物とする。

注3: 大型車交通量が少ないため、安定度2.45kN以上、等値換算係数で0.55の混合物とする。

注4: 路床細粒分の上昇、粒状路盤材の細粒分抽出による路床支持力の低下、浸透能力の阻害などが懸念される場合は、フィルタ層を路床上に設置する。フィルタ層は路床の浸透性能以上に透水性を持ち、細粒分の流出防止に効果がある砂やジオテキスタイルを使用する。フィルタ層の厚さは10cm程度を標準とする。

注5: 「T_A」とは、アスファルト舗装の路盤から基層までの全層を、全て表層・基層用の加熱アスファルト混合物で作ると仮定した場合に必要な舗装厚さをいう。